

計画では、「めざすべき環境像」や「6つのまちの姿」を実現する上で、社会的要請の高い課題、市の環境特性に関係する課題、すべての主体の取組が不可欠な課題など、積極的な取組が求められる重点分野を明らかにし、数値目標や指標を示しています。

重点分野

地球温暖化・エネルギー対策の推進

重点分野の目標の達成状況

- ・市域における温室効果ガス排出量の削減に取り組むとともに、本市の特徴である優れた環境技術を活かし地域全体での温室効果ガス排出量の削減に貢献することで2020年までに1990年度における市域の温室効果ガス排出量の25%以上に相当する量の削減を目指す。
⇒2010年度の温室効果ガス排出量は2,431万トンCO₂

市内の温室効果ガス総排出量の2009年度（暫定値）は2,339万トンCO₂、2010年度（暫定値）は2,431万トンCO₂で、基準年度（※）の総排出量2,922万トンCO₂と比べ、2009年度20.0%の減少、2010年度16.8%の減少となっております。

市内の温室効果ガス排出量

（単位：万トンCO₂）

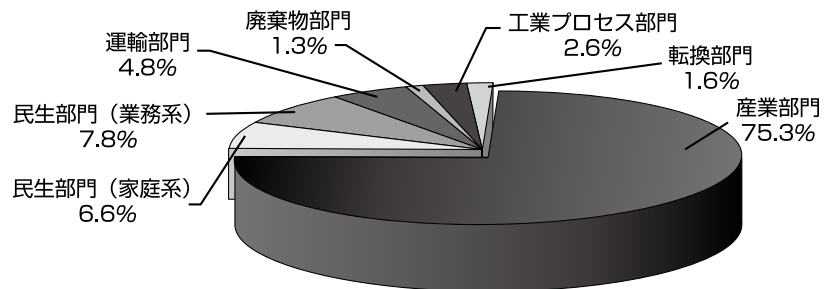
温室効果ガス	地球温暖化係数	基準年度※	2008年度	2009年度（暫定値）	2010年度（暫定値）	基準年度との比較
温室効果ガス総排出量	—	2,922	2,523	2,339	2,431	—16.8%
削減率（基準年度比）	—	—	13.7%	20.0%	16.8%	
内訳	二酸化炭素	1	2,671	2,470	2,295	—10.1%
	メタン	21	1.3	1.9	1.8	5.2%
	一酸化二窒素	310	7.8	10.2	10.2	22.3%
	HFCs	1,300等	25.5	8.8	6.1	—93.9%
	PFCs	6,500等	16.7	29.1	21.7	—25.8%
	六ふっ化硫黄	23,900	200.4	3.1	3.8	—98.1%

※二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素は1990年度、HFCs、PFCs、SF₆は1995年度

2010年度の部門別の二酸化炭素の排出割合では、産業部門が75.3%と大きな排出源となっております。

次に大きな割合になっているのは民生部門（業務系）の7.8%で、以下、民生部門（家庭系）、運輸部門が続いています。

市内の二酸化炭素排出量の部門別構成比(2010年度暫定値ベース)



*暫定値：算定に使用する国のデータに開示の遅れ、修正見込みがあるため、従来と異なる方法により算出しています。今後、国のデータ公表の後、例年の算定方法により再算定します。

～「かわさきコンパクト」の推進～



川崎市は、人権、労働、環境、腐敗防止の4分野で世界的に確立された原則を支持・実践する「国連グローバル・コンパクト」に国内唯一の都市として参加しており、このグローバル・コンパクトの理念の市内展開を図るため、企業・市民向けに「かわさきコンパクト」を策定し、企業・市民の自発的参加・連携によって地域課題への取組を進めています。

詳しくは、かわさきコンパクトホームページ (<http://www.kawasaki-compact.com/>) をご覧ください。